

2020 年度春学期緊急的な遠隔授業のアンケート報告

ヴァンバーレン・ルート
(日本語教育部門 FD 委員長)

要 旨

新型コロナウイルス感染症の拡大により、CEGLOC 日本語教育部門で開講された 2020 年度春学期の日本語科目はすべて遠隔で行われた。学生が直面した問題や遠隔授業に対する感想を把握するために、学期末にオンラインアンケートを実施した。本報告はアンケートの実施方法および結果をまとめたものである。全体的に、受講者は遠隔授業の内容や授業を実施するために利用されたプラットフォーム (Zoom と manaba) について満足していた。主な問題点としては、通信速度の問題、クラスメートとのつながり不足やモチベーション維持などが挙げられた。本報告が今後の授業形態や実施方法に役立つことを期待したい。

【キーワード】 緊急的な遠隔授業 2020 年度春学期 アンケート結果

Report on the 2020 Spring Semester Emergency Remote Classes Survey

VANBAELEN Ruth
JLED FD Committee Chair

【Abstract】 Due to the outbreak of Covid-19, all Japanese language classes at CEGLOC were held remotely during Spring 2020. To understand the problems students experienced and how they felt about the classes, an online survey was conducted near the end of the term. This report discusses the results. Overall, students were satisfied about the online class content and the platforms (Zoom and manaba) that were used to conduct the classes. Problems with internet speed, insufficient contact with classmates and maintaining of motivation were indicated as the main issues. It is hoped that this report will be useful for future classroom formats and practices.

【Keywords】 Emergency remote classes, Spring 2020, survey results

1. はじめに

各学期の終了時に受講者が大学実施の「授業評価アンケート」を紙ベース（マークシート方式）で回答する。データの分析後、結果が担当教員に届けられ、学生から授業へのフィードバックとなる。2020年度春学期は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、筑波大学のすべての授業がオンラインとなり、それに伴い、授業評価アンケートも電子化され、教育情報システム TWINS (Tsukuba Web-based Information Network System) で実施されるようになったが、アンケート内容は従来と同じ内容である。17問を通して、受講者は教員による授業の準備や説明、進め方、教え方、そして授業の学習目標や課題、評価基準など、また受講者自身の授業への取り組み方を評価する。自由記述欄も設けられている。しかし、2020年度春学期の緊急的な遠隔授業のあり方について、授業評価アンケートの従来の内容では、受講者の意見をくみ取ることが不可能なため、日本語教育部門は独自に緊急的な遠隔授業に焦点を当てたアンケートを用意した。26問を通して、対面式授業と比較しながらオンライン授業を評価してもらい、授業のツールとして利用したプラットフォーム（学習管理運営システムの manaba およびオンライン授業実施用の web 会議ツール Zoom）やキャンパス生活についてアンケートを行った。大学実施の授業評価アンケートと同様に自由記述欄も設けた。本報告はアンケートの実施方法や内容を明記し、データ分析を行った結果について記述する。そして、今後も実施されるであろうオンライン授業やハイブリッド授業へのガイドラインになることを期待する。本報告では便宜上、緊急的な遠隔授業、遠隔授業とオンライン授業を同内容の授業と捉えることとする。

2. アンケートの実施方法

ここでは、春学期緊急的な遠隔授業に関するアンケート（以下、アンケート）の実施方法について記述する。

2.1 Google Form の作成

アンケートの実施プラットフォームについて検討した時、教員と学生が使用する manaba が候補として上がったが、各授業のページに内容を掲載する作業の負担および匿名記入が不可能という2点から、最終的に集計も容易で、かつ記入の匿名性が高い設定が可能な Google Form を利用した。授業評価アンケート担当教員の関崎博紀・文祝允を中心に内容を用意し、専任教員で議論され調整のうえ、決定された。

2.2 使用言語

アンケートは日中英の3言語を用意した。しかし、400以上の回答数を考慮して翻訳

作業を最小限にするために回答可能な言語は日英のみを設定した。

2.3 質問項目および回答時間

大学が各学期に実施する「授業評価アンケート」で取り扱われていないオンライン授業に関する評価および意見に焦点を当てた項目を別途立てた。自由記述を含む計 26 問を通して、受講者がオンライン授業を評価し、授業のプラットフォーム（学習管理運営システムの manaba およびオンライン授業実施用の web 会議ツール Zoom）やキャンパス生活について回答する内容となった（詳細は資料 1 を参照）。

学生の記入負担を考えると、受講科目が多い学生ほど負担が増えることから項目様式をできる限り選択肢とし、回答時間を 10 分程度とするアンケート量が適当と考えた。

2.4 実施までの詳細：受講者への案内、対象者および実施時期

Manaba に掲示・周知できるよう、受講者への案内文（資料 2 を参照）を日中英の 3 言語で記した。案内文がメーリングリストを通してすべての授業担当教員に送信され、授業中にもアンケートの協力を呼び掛けるよう依頼した。TWINS 上、実施される従来の「授業評価アンケート（大学実施）」と本報告の対象となっている Google Form のアンケートという 2 種類のアンケートが存在することとそれぞれのアクセス方法が異なっていることを受講者に伝えることが重要であることから、授業担当教員の協力が欠かせなかった。

アンケート対象者は CEGLOC で開講されているすべての日本語科目（総合日本語コース、補講日本語コース、外国語としての日本語、英語プログラム日本語コース、予備教育コース、キャリア支援日本語コース）の受講者である。春学期には Japan-Expert 日本語科目は開講されないため、本アンケートは対象から外した。

春 B 終了科目の入力時期は 2020 年 6 月 15 日（月）～7 月 19 日（日）に、春 C 終了科目は 2020 年 7 月 20 日（月）～8 月 30 日（日）と設定した。

3. アンケート結果

アンケート結果をまとめる際、受講者および授業担当教員の個人情報を保護するために、個人を特定できる情報（科目名、曜時限、自由記述での氏名など）はすべて省き、以下の結果表示や分析、考察を行った。

3.1 回答者数および受講コースの内訳

合計 485 名から回答を得た。しかし、CEGLOC 開講ではない日本語科目の 15 回答を

対象外とし、470名の回答について分析を行った。受講コースの内訳は表1の通りである。

表1 回答者の受講コース内訳

コース名	2020年度春学期 履修登録者延べ数	アンケート回答者数 (履修登録者の%)
補講日本語コース	479	281(58.7%)
総合日本語コース	264	99(37.5%)
外国語としての日本語	39	27(69.2%)
英語プログラム日本語コース	35	15(42.9%)
予備教育コース	4	3(75%)
キャリア支援日本語コース	51	23(45.1%)
受講コース不明		22(全体の2.5%)
合計	872	470(54.9%)

3.2 各問への回答結果

本アンケートは7つのセクションに分かれている。本節で各セクションの結果を記述し、第4節で考察を加える。

セクション1:「この授業について」

セクション1では受講者に科目名および曜時限の記入が求められたため、結果が個人を特定できる情報とつながる恐れがあることから、詳細については述べない。上記の表1が得られた情報のまとめである。残りの6セクションについても、匿名性を高めるため、結果をコース別ではない形でまとめて表示する。

セクション2:「オンライン授業を受けるための環境について」

まず、ネット環境や使用する機器および場所とそれに伴う問題点、または2020年3月以前のオンライン授業の受講有無について調査した。ネット環境について、37名が有線で、残りの433名が無線でネットにアクセスをしていた。

使用する機器(複数回答可)について、ほとんどの受講者がパソコン(カメラ付き441名、カメラ無し41名)を使用して授業に参加していたことが分かった。そのほか41名がタブレット、70名がスマートフォンを使用していたが、併用も見られた。カメラ付きPCとスマートフォンの併用が40名、カメラ無しPCとスマートフォンの併用が13名、PCとタブレットが14名、PC・タブレット・スマートフォンの併用が5名であった。しかし、使い勝手が良いとは必ずしも言えないタブレットのみが17名、そしてスマートフォンのみが7名いた。プリンターの所有率が低く470名中411名が持っていないことがわかった。

オンライン授業の経験がない受講者が圧倒的（342名）であった。経験のある学生が使用したプラットフォームとして、Zoomが最も多く（106名）、その他 Coursera（6名）、Skype（4名）、Google Meet（3名）、Blackboard（2名）が続いた。1つ以上のプラットフォームの使用経験がある受講者は7名いた。

受講場所としては、日本で自宅（396名）が多く挙げられ、その次は海外での自宅（73名）で、1名のみが研究室と回答した。

問題なく受講できた学生は91名であったが、主な問題は通信速度（310名）であった。その他、充電残量不足で受講できなくなった報告が46名、ソフト関連の問題（使い方が難しい、ソフトそのものが重いなど（53名）、通信量の上限（16名）、通信料が高くなったこと（13名）が挙げられる。

セクション3：「オンライン授業の方法について」

予習の時間について聞いたところ、「対面式授業と同程度」が最も多く（236名）選択され、その次は順に「より短い」（108名）、「より長い」（95名）、「あまりしない」（31名）という結果が得られた。復習の時間に関しても類似した回答となった。順に「同じぐらい」（244名）、「より長い」（105名）、「より短い」（95名）、「あまりしない」（26名）という結果になった。

次に、受講者にオンライン授業の長所（複数回答可）を述べてもらい、以下のリスト（表2）に高い順から表示している。各自の部屋で各自のペースで勉強できることが高く評価され、予習・復習・宿題がやりやすいこともオンライン授業の大事な要因となったようである。また、授業担当教員による準備（説明資料の充実さ（視覚を含む））や練習の指示が好評であった。

表2 オンライン授業の良いところ

	要因	回答者数(複数回答可)
1	自分の部屋で勉強できる	307
2	自分のペースで勉強できる	282
3	予習しやすい	146
4	宿題が分かりやすい	140
5	復習しやすい	133
6	説明の資料が充実している	132
7	説明が視覚的で分かりやすい	116
8	質問しやすい	109
9	先生からの練習の指示が分かりやすい	108
10	楽しい	101
11	議論しやすい	93
12	集中できる	91
13	学生同士のやりとりがしやすい	74
14	その他：対面式授業の方が望ましい	7

さらに、授業担当教員からのフィードバックへの評価が高く、ほとんどの受講者(446名)にとってフィードバックが十分(「大いにそう思う。」(345名)、「まあまあそう思う。」(101名))であり、24名のみから不十分(「あまりそう思わない。」(19名)、「全然そう思わない。」(5名))という回答が得られた。

このセクション3の最後に対面式授業とオンライン授業の今後のバランス、や両スタイルを比較して対面式授業を100として、オンライン授業の満足度の数量化を依頼した。

今後のバランスへの希望を図1にまとめた。対面式授業を好む回答(「対面式授業100%」(60名)と「対面式授業>オンライン授業(対面式をオンライン形式より好む)」(167名)が、オンライン授業を好む回答(「オンライン授業>対面式授業」(73名)と「オンライン授業100%」(27名))を上回る結果となったが、対面式とオンライン形式のブレンドを望む回答も143名と少なくないことは興味深い。

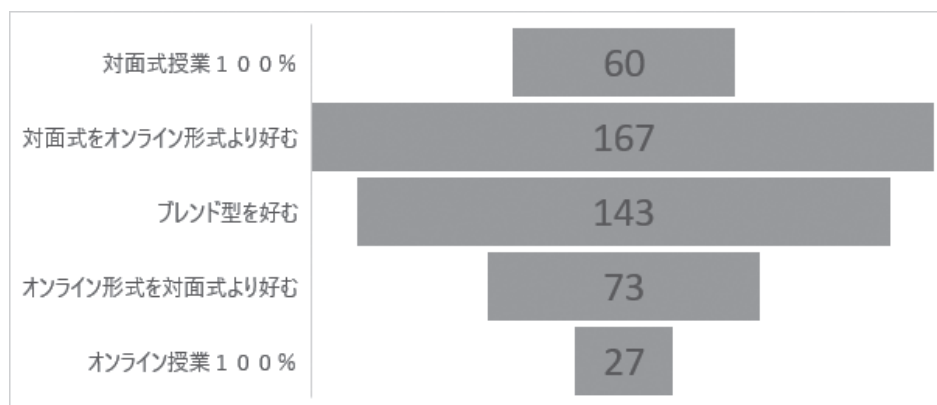


図1 対面式授業とオンライン授業のバランスの希望(数字は人数)

満足度を表す両スタイルの比較結果を図2に示す。この問いの「回答なし」は54名であり、パーセンテージは回答者416名を分母として計算した。対面式授業を100として、オンライン授業に対する満足度を数字で表した場合、回答者416名中278名(66.8%)(1000(1名)、101~200(14名)、100(74名)、90~99(79名)、80~89(110名))が対面式授業よりもオンライン授業への満足度が高いか(ほぼ)同等であると報告している。138名(33.2%)(70~79(57名)、60~69(31名)、50~59(20名)、40~49(11名)、30~39(10名)、20~29(4名)、10(5名))の満足度が対面式授業よりも低いと評価していた。

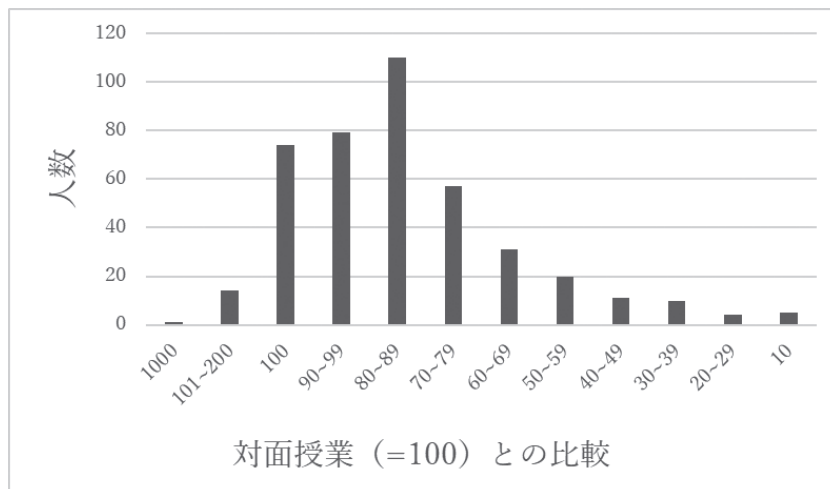


図2 オンライン授業への満足度

セクション4:「manaba について」

学習管理システム manaba の利用の問題点などについてはあまり言及されなかった。ほとんどの回答者が資料の閲覧やダウンロードをスムーズに（「問題なくできた」（370名）、もしくは「だいたいできた」（97名））できたが、「あまりできなかった」と回答した3名は原因として使用している端末のソフトウェアとの互換性の問題を挙げた。全体的に、manaba が使いやすいと評価（「大いにそう思う。」（281名）、「まあまあそう思う。」（175名））され、あまりそう思わない回答者は14名のみであった。今後、対面式授業となっても、継続して manaba を使いたい回答者がほとんど（「大いにそう思う。」（295名）、「まあまあそう思う。」（144名））で、使い続けたくない回答者は31名（「あまりそう思わない。」（29名）、「全然そう思わない。」（2名））のみであった。

セクション5:「Zoom について」

前述したようにオンライン授業が未経験の受講者がほとんどで（342名）、Zoom 経験者も98名にとどまり、未経験者が372名だった。各教員が授業で行った Zoom の使い方についての説明が、受講者にとって「充分だった」（274名）、もしくは「だいたいよかった」（159名）と評価され、残りの37名が追加の説明が必要だと判断した。

授業中 Zoom のカメラ機能について、受講者がカメラをオフにする理由（複数回答可）として最も挙げられたのは通信が不安定なこと（278名）とプライバシー（269名）で、次いで使用機器の充電残量（57名）と通信データ量（53名）であった。Zoom 特徴の1つであるブレイクアウトルームについて、今後も同じように使いたい（266名）という回答が多かったが、時間を短縮しての使用が良い（103名）意見やあまり使用しない方が

良い (49名) という意見もあった。

セクション6:「キャンパス生活について」

クラスメートとつながりができたかについては、否定的な回答が多く(「あまりつながりができなかった。」(161名)、「全然つながりができなかった。」(123名))、肯定的な意見(「たくさんつながりができた。」(45名)、「少しつながりができた。」(141名))を上回っていた。しかし、新型コロナウイルス感染症のリスクを考慮して、授業のオンライン実施が適切だった(460名)という判断が不適切(10名)を大きく上回った。授業に欠かせない教科書の購入ができた学生が346名だったが、最終的に購入できなかった学生が124名もいた。

セクション7:「自由記述」

自由記述欄に191名の受講者が意見やコメントを残した(資料3を参照)。オンラインよりも対面式授業の方が望ましいと明記した学生は21名いたが、肯定的な印象を持つ学生の数圧倒的に多かった。それは対面式授業が不可能で遠隔授業がやむを得ない対策であるという消極的な意見もあったが、入国が不可能にもかかわらず、海外から受講できたことを喜ぶ声や、新しい授業形態の新鮮さを指摘する受講者もいた。

全体的にオンライン授業がポジティブに評価されたとはいえ、課題が残ったことも現実である。課題としてすでに上述のセクションに挙げられた項目(例:通信が不安定(セクション5)やクラスメートとのつながり(セクション6))が自由記述欄に改めて記述されたこともあるが、まだ明らかにならなかった課題がセクション7で浮き上がっており、ここでいくつか取り上げる。1つ目が授業の進め方、2つ目が技術的な問題、そして3つ目が時差である。授業の進め方として、授業間に統一性があった方が良いという指摘である。これは、日本語の授業に関するだけのコメントではなく、大学全体に対する指摘である。記述者(資料3の136番)が教授法や課題の提出方法が各授業において異なり、受講者にとってわかりにくく複雑であることを指摘し、統一した大学の方針を望んでいる。本コメントは2つ目の技術的な問題ともつながっている。授業に使用されるプラットフォーム(ZoomやMicrosoft Teamsなど)によって、接続ができない場合もあるという回答や、統一性が望ましいという記述である。他にも、話す側が自身の声や背景にあるノイズに気づかないため教員側からもサウンドチェックの実施を勧める記述(資料3の38番)があった。最後に、3つ目の時差に関する記述に触れる。時差があまりにも大きく、同期型の授業への参加が不可能な学生(資料3の30番)や、同期型授業がない科目を履修した学生(資料3の178番)はmanabaにアップロードされた授業資料(PDFやPPT)を評価しながらも、モチベーションの維持が困難と指摘している。

課題提示のみならず、受講者から改善の提案もあった。その1つは Zoom の設定に関する提案である。設定により、教員がリンクを立ち上げるまでには参加者が入室できないが、授業開始前から利用可能な設定により学生同士で会話ができれば、練習時間が増やせるという提案である。

4. 考察

セクション1で記述したように、CEGLOC で春学期に開講される6種類の日本語コースの参加者がアンケートに回答した。回答率はコースによって異なるが、平均55%の回答率が得られたことから、本報告は2020年度春学期の受講者の声を十分に反映していると考えられる。

セクション2では、ほとんどの学生がPCを所有しているが、プリンターを持っている学生は少ないことが明らかになった。そのため、多くの学生はすべての作業（授業参加や課題など）を画面上で行わざるを得ない。これは画面使用時間の増加につながり、疲労にもつながる危険性がある。幸いなことに、スマートフォンだけで授業を受けている受講者はほとんどいなかった。授業を受ける場所としては主に国内や海外の自宅が挙げられていたが、大学の研究室など別の場所を利用しているとの回答もあった。主な課題として報告されたのは通信速度であった。ただし、個人部屋がないなどのプライバシーの問題については本アンケートでは調査していない。通信速度のほかにプライバシーという点を含めて、カメラの使用が必ずしも可能ではないことや、通信速度問題によって同期型授業への参加が可能ではないことを考慮し、manabaのような媒体で十分な授業資料と教材を閲覧できるようにする必要があることを今後も念頭に置く必要があるだろう。

セクション3の結果から、授業の予習や復習にかかった時間は、通常よりも長くない、すなわち対面式授業とほぼ同じ状況であることが示された。本結果は、授業、とりわけ課題の負担が増えたことを教員に訴える学生からの個人的フィードバックとは対称的である。図2からわかるようにオンライン授業に対する評価や満足度は概ね肯定的であった。しかし、今後のオンライン授業と対面式授業のバランスについて調査したところ、対面式授業を望む学生がより多い結果となった。どちらでもよい学生が約3割に、対面式授業よりもオンライン授業（すべての授業をオンラインに実施、または対面式授業よりもオンライン授業をより多く実施）を望む人は21.3%にとどまっており、その一方半数近くの受講者（48.3%）がオンライン授業よりも対面式授業を望むことが判明した。

CEGLOCで開講されている日本語科目は授業実施方法として主に「Zoom」と「manaba」というプラットフォームを利用した。セクション4と5の結果から、両プラットフォームの利用自体は大きな問題はなかったことがわかる。特にZoomについては、

学生への授業前説明が十分になされていたことが回答からも読み取れる。これは、学期開始前にツールとそれぞれの機能に慣れるために教員を対象に行われた練習会の効果であると思われる。しかし、注意すべき点もある。それは受講者がブレイクアウトルーム機能の使用を概ね評価しているものの、時間的に制限したい(103名、21.9%)、あるいは全く使いたくない(49名、10.4%)という意見も見られたことである。これらの数字は、3人に1人の学生がこの機能を好んでいないことを示している。CEGLOC日本語教育部門として、ペアワークやグループディスカッションを可能にするブレイクアウトルームがあるからこそMicrosoft TeamsやGoogle MeetのようなプラットフォームよりもZoomを選んだ理由の1つであるにもかかわらず、3割強の受講者にとってこの機能が不評であることは無視できず、使用頻度や時間の長さを考慮する必要がある。

教科書(セクション6)を購入することについても、4人に1人の学生(124名)にとって不可能であった。現在、出版社や発行所は様々なアクセス方法を提供しているが、著作権のない教材を作成して利用したり、世界中で購入可能な教科書の使用を検討したりする必要がある。また、セクション6では、約6割の学生がオンライン授業を通してクラスメートとのつながりが十分でできなかった、あるいはまったくできなかったと回答している。オンライン授業の満足度が66.8%と全体的に高いことがセクション3の結果からわかったが、クラスメートとのコミュニケーションやつながりが不足していることは明らかである。この結果をセクション7でのモチベーションに関する一部の学生の自由記述と結びつけると、オンライン授業の目新しさが薄れたときに、学生のモチベーションが減少し、授業の途中履修放棄が起こる危険性があることに留意することが必要である。さらに、本報告の範囲外ではあるが、日本語科目の受講者のほとんどが留学生であることを考慮すると、留学生対象科目にオンライン授業の意義を問うことも重要である。留学とは語学学習にとどまらない人生の中に大きな役割を果たすもので、その期間中に会った人が将来のキャリア構成にまで影響を及ぼす可能性が大きい。つながりを満足にできないまま留学期間を終える受講者を最小限に抑える対策を考えることが今後の課題の1つであろう。

セクション7では、授業開始前の自由会話の時間を増やすことを提案する学生がいた。これはZoom待機室を無効にする設定によって容易に実現できる。授業前に学生同士が自由に会話できることは、練習時間の増加につながるだけでなく、モチベーションの向上にもつながると考えられ、上記のモチベーション減少や履修放棄への対策にもつながる可能性がある。

5. まとめ

新型コロナウイルス感染症の拡大により2020年度春学期で初めてCEGLOC日本語

教育部門で開講されているすべての日本語科目が遠隔授業となった。新しい授業形態を模索する上で、学生の印象や直面する問題点の把握のためのアンケートに基づいて分析した結果、以下の点が挙げられる。

受講環境の面では、ほとんどの受講者が PC を使って授業に参加したが通信速度が最も大きな問題点であった。予習や復習にかかった時間は対面式授業と比較してもあまり変化せず、遠隔授業が負担の増加にはそれほど影響していないことが判明した。オンライン授業が新鮮で授業担当教員の準備がよく、利用されたプラットフォームの Zoom と manaba も不自由なく使用できており、コロナ禍でも（海外から）授業ができたことなどを理由に 2020 年度春学期の授業が好評であった。にもかかわらず、対面式授業が望ましいということはアンケート結果から明らかで、特にクラスメートとのつながりが不十分でモチベーション維持が困難だという指摘は、オンラインだけで行う教育での大きな課題と言えよう。

「謝辞」

アンケートにご協力いただいた学生に感謝申し上げます。回答が遠隔授業に対する学生の気持ちや直面した問題点など、参考になる大事な情報となりました。また、対面式授業からオンライン授業へのスムーズな対応に対して、CEGLOC 日本語教育部門の教員全員に深く感謝申し上げます。

資料 1

授業評価アンケートの Google Form は以下のリンクで閲覧可能である。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfgt-1TVNQO7SZVRLMIUS7twvQhLux1dP6UEH87EJswkLi0Cg/viewform>

資料 2

授業アンケート担当教員より受講者への案内文は以下のリンクで閲覧可能である。

<https://drive.google.com/file/d/17RWu4xZo2CwgOsPety1bpLqEhbYRY8vx/view>

資料 3

授業評価アンケートの自由記述欄：個人の特定につながる情報（教員名、科目名、教科書名など）を削除したデータは以下のリンクで閲覧可能である。

<https://drive.google.com/file/d/1OpFybhL7BZdFAvegLSP8IsMTmPQBKB0G/view?usp=sharing>